

- ・協議会は、その専門性も知見や技術の分野も異なる多様な主体で構成されており、それら主体が、調布のまちや市民のために議論をしながら新たな市民サービスの創出を図る、市にとって貴重な資源である。
- ・ここで得られる成果を広く市民と共有し、全ての構成団体にとってのメリットにつなげていくためにも、これまで以上に各構成団体の強みを生かし、市単独では生み出せない効果を創出できるよう、市民ニーズや課題認識を踏まえた協議会として取り組むべき社会的課題の設定を目指す。

① 庁内における協議会との連携状況を共有し、その成果の多面的な活用につなげる

- 各ワーキンググループ(都市OS, 市民, 移動, 防災, ヘルスケア)における取組が、「協議会の取組」と位置付けられてきた
- 庁内における協議会の活動状況の共有は限定的なものとなっていた



- 各構成団体との取組を協議会が掲げたMVIに照らし、幅広く“関連の取組”として位置付け、協議会のPRにつなげる
- 各部署における協議会との連携状況について庁内で共有し、技術・ノウハウの他分野での活用につなげる

- ✓ 庁内各部署において、協議会設立(R3年6月)以降に検討・実施された、各構成団体との連携事業の洗い出しを実施（別表参照） ※ 別途各部へ照会予定
- ✓ 協議会での検討・連携状況について、継続的な庁内での情報共有を図る

② 協議会として取り組むべき社会的課題の設定

- 設立時、構成団体の持つリソースを活用して取り組むことのできる領域が、現在のWGとして設定された
- 市民ニーズや課題認識を踏まえて、市からも検討課題を提起できる体制づくりが必要



- 中長期的なスマートシティの指針として令和8年度に(仮称)調布スマートシティ戦略を策定する
- 当該戦略を踏まえ、後期基本計画において、スマートシティの目指す姿や計画期間における産学官連携による価値創造の視点を分野横断的に位置付ける

- ✓ 各構成団体のノウハウ等の活用が見込まれる課題について、構成団体間での闊達な意見交換を目的に試行的に設置した“全体ミーティング”へ検討を提起できる機会を設ける
- ✓ 協議会として取り組むべき社会的課題の設定に向けて、庁内横断的な検討に取り組む